



持続可能性のための灯台としての島々

2025 年 11 月 10 日（月曜日）

会場: 東京大学大学院情報学環・学際情報学府 ダイワユビキタス学術研究館大和ハウス石橋信夫記念館（日本、東京文京区本郷 7-3-1、113-0033）

持続可能性と持続可能な開発は、世界的にますます緊急の課題となっています。新しいアプローチと新しいパラダイムが必要です。島々は、これらのアプローチおよび持続可能性の科学ならびに持続可能な開発を推進するための独自で貴重な事例研究を提供しています。現在のグローバルな経済および社会システムの中で、島々は経済的、社会的、政治的、文化的に疎外されることをしばしば経験しています。同時に、彼らは生物多様性ホットスポットおよび高い絶滅リスクを抱える地域として、気候変動の影響の最前線に置かれています。方法論的および科学的な観点から、島々は持続可能性を研究、理解、および測定するための理想的な「実験室」としてしばしば引用されています。彼らの明確に定義された地理的境界と容易に描写できる資源の流れによりは、島々は分析的に管理することが可能となり、概念的に明瞭になっています。

島、島民、および島らしさは、日本とギリシャという、昨年外交関係 125 周年を祝った島々からなる海洋国家の文化、経済、地理の多くの重要な特徴を成すものです。このワークショップは、在日ギリシャ大使館の後援および、エラスムス・ムンダスプログラム「島と持続可能性」(<https://islandsmaster.eu>) の主導の下で、エラスムス・ムンダスプログラム「ユーロカルチャー」(<https://www.euroculturemaster.eu>) とのパートナーの関与に基づき組成されており、東京大学、グローニンゲン大学、エーゲ海大学、大阪大学、東北大学が共同で組織しています。

このワークショップは、島嶼および関連研究の第一線の学者を集め、実験室の観点を超えて、島の持つ持続可能性のための灯台としての枠組みを設定し、島々がこれまでもしばしば果たしてきた持続可能な実践に向けて、より広範なグローバルな経済および社会システムを導く能力を持つようにすることを目指しています。彼らはテスト対象ではなく、その機敏さ、レジリエンス、および適応能力を評価されるべきです。



ワークショップはどなたでも参加でき、参加費はありませんが、事前の登録が必要です（対面またはオンライン参加の選択も含めて）。

ワークショッププログラム（日本標準時間）：

- 13:00 - 13:15: 開会の挨拶
- 13:15 - 13:35: 島の研究について
- 13:35-13:55: 島と生物多様性についての過去・現在・未来
- 13:55-14:15: 島の経済における食品供給チェーン
- 14:15-14:30: ディスカッション
- 14:30-14:45: 茶/コーヒースタイル
- 14:45 - 15:25: 島における健康と幸福
- 15:25 - 15:45: 島の機能と産業の持続可能性
- 15:45-16:00: ディスカッション
- 16:00 - 16:10: 茶/コーヒースタイル
- 16:10 - 16:50: 島の未来についてのパネルディスカッション（確認待ち）
- 16:50-17:00: 閉会の言葉